江戸時代の大和路紀行・日記・社寺縁起・名所旧跡・大和戦記などの和本（写本）を復刻。

池田　末則　編・解説

近世大和紀行集

全六巻

クレス出版

刊行にあたって

本叢書は『近世大和紀行集』と題しているが、内容は江戸時代の大和路紀行・日記・社寺縁起・名所旧跡・大和戦記などの和本（写本）を復刻したものである。こうした木版本には当時の生原稿――直筆を読むような楽しさがある。

大和の国は「国の始まり大和、郡の始まり宇陀郡」といわれたように、『古事記』・『日本書紀』・『万葉集』・『懐風藻』など、大和は日本古代史の舞台であり、自然と風土に恵まれた特異な地域であった。

ところが、惜しくも寺院仏閣の遺跡は、明治初期の神仏分離の災にふれ、多くの文化財は失われ、埋もれてしまった。例えば、大御輪寺・内山永久寺・奈良眉間寺など、土地開発によって歴史的風土の様相まで一変してしまった。加えて、近世まで伝承されてきた諸大寺の祭礼、諸行事や社会生活の諸事情に至るまで、具さに窺い知ることができなくなった。

たまたま、近世初期以来、松花堂昭乗・飛鳥井雅章・松尾芭蕉・貝原益軒・本居宣長・氷室長翁・上田秋成らの文人墨客が大和各地を歴訪、大小さまざまな名所記を板行し、大和への行客を誘致したが、こうした近世先学の記録類も、今や容易に見ることができない歴史研究の資料となった。

近世、奈良・伊勢古社寺巡礼の案内書には「名所を通れども、名所なりとしらず、かつらき・たかまの山（金剛山）をさへ、大和にて何方にありともしらざるものあり、これ盲人のめぐりたるに似たり、なげかわしきことなり」と書いている。

当時の旅は春季の頃と決まっていた。伊勢から大和を志した旅人は、まず室生・長谷・三輪から吉野をすぎ、高野山に向かったことであろう。したがって、多くの文人墨客が大和各地の名跡を巡歴した。また『西国名所図会』、『大和名所記』、『吉野山独案内』などの名所案内記の出版をみた。さらに、こうした案内記が後世の小説の資料として取材された例もある。演劇・映画・テレビで有名な中里介山の『大菩薩峠』「三輪の神杉の巻」の条のごときは、天誅組の歴史的叙述に加え、大和自然活写の冴えと深み、明快な地名の考証など、かつて谷崎潤一郎の絶賛をまつまでもなく、その文体には悠然たる興趣が迫ってくる――。最近の安岡章太郎の『果てもない道中記』（『群像』平成三年二月号まで）が『大菩薩峠』の絶賛に終始している。

因みに、一九四二年、奈良に創設した日本地名学研究所（友山文庫）長の中野文彦（奈良県初代教育委員長・『校本風葉和歌集』・『和歌俳諧人名辞書』・『名家伝記資料集成』全五巻の著者）は、生涯を地名研究資料の収集、整理にも尽くされてきた。二〇〇三年に至って、旧蔵書類を『地名研究資料集』として全五巻（クレス出版）、二〇〇五年に『近代地名研究資料集』全六巻（同）を上梓した。さらに、今回は近世資料の復刻出版を企画した次第である。幸い、吉野・奈良の世界遺産指定、平城遷都千三百年祭の好機に、本叢書を公刊することは欣ばしいことである。

奈良・橿原市住居表示審議会委員（文博）
日本地名学研究所所長
池田末則

近世大和紀行集　全六巻

第一巻　紀行日記

吉野山独案内（六巻）　寛文十一年　謡春庵周可
芳野日記　嘉永元年　氷室長翁
吉野道の記　寛政五年　青清風刻写
多武山二十六勝志　安政四年　竹亭武敬画
月瀬紀勝（乾・坤）　嘉永四年　斉藤拙堂
神楫帖（懐中歌日記）　文久元年　伴林光平

第二巻　寺社縁起

春日大宮若宮御祭礼図（全）　寛保二年　春日大社
長谷寺縁起　文化十年　長谷寺
生駒山宝山寺縁起　宝永三年　宝山寺
竜田考　嘉永二年　六人部是香
竜田考辨　昭和六年　渡辺重春
竜田詣
大安寺流記資財帳
西大寺三宝祈田園目録
法隆寺流記資財帳
放光寺古今縁起
讃岐国山田郡古田図考　山岡肇（興福寺）
吉野山御入峯代々記　（聖護院）

第三巻　名所旧跡　一

大和名所記（和州旧跡幽考二〇巻）　延宝九年　林宗甫

第四巻　名所旧跡　二

大和名所記　元禄八年
大和名所独旅　明和九年（嘉永五年十月改）
大和名所記　宝暦四年・嘉永五年　絵図屋庄八
南都名所記　元文三年　中尾含真他
土産枝折鞭　安永九年八月　藤本敬恭他
大和風雅　上・下巻　天明五年
新撰　大和往来　徳川中期
奈良地誌　高橋遠治
葛城三十八景詩集
吉野枝折（志を里）　寛政十三年

第五巻　大和戦記　一

和州諸将軍伝（十三巻）　宝永四年　閑士漱石

第六巻　大和戦記　二・大和一揆

大和日記　全　文久三年　半田門吉
南山踏雲録（篭中日記）　文久三年　伴林光平
十津川記事　上・下巻　嘉永六年～明治二十五年　中西孝則
遠香雑記―角之進一代記―　安政三年（写）
八条村庄屋石衛門行状聞書―　安永七年十二月

近世大和紀行集　全六巻

池田　末則 編・解説

第一巻	紀行日記	定価13,000円（税別）	ISBN978-4-87733-404-8
第二巻	寺社縁起	定価19,000円（税別）	ISBN978-4-87733-405-5
第三巻	名所旧跡　一	定価20,000円（税別）	ISBN978-4-87733-406-2
第四巻	名所旧跡　二	定価16,000円（税別）	ISBN978-4-87733-407-9
第五巻	大和戦記　一	定価14,000円（税別）	ISBN978-4-87733-408-6
第六巻	大和戦記　二・大和一揆	定価12,000円（税別）	ISBN978-4-87733-409-3

A５判／上製函入／クロス装　揃定価94,000円（税別）

平成20年１月末日刊行　ISBN978-4-87733-410-9（セット）

近代地名研究資料集　全６巻

池田末則（日本地名学研究所所長）編・解説

第１巻	日本歴史及地理要覧	定価12,500円（税別）	ISBN4-87733-273-1
第２巻	帝国地名大辞典　上	定価20,000円（税別）	ISBN4-87733-274-X
第３巻	帝国地名大辞典　下	定価26,000円（税別）	ISBN4-87733-275-8
第４巻	大日本市町村案内	定価30,000円（税別）	ISBN4-87733-276-6

●第１巻～第４巻　全４巻　揃定価88,500円（税別）　ISBN4-87733-277-4（セット）

第５巻	アイヌ語より見たる日本地名研究		
	アイヌ語より見た日本地名新研究	定価11,000円（税別）	ISBN4-87733-278-2
第６巻	町村名の研究	定価 7,500円（税別）	ISBN4-87733-279-0

●第５巻・第６巻　全２巻　揃定価18,500円（税別）　ISBN4-87733-280-4（セット）

な　ら ―― 高田十郎雑記

全３巻（第１号～第57号）、池田末則 解説

❶ 第１号（大正９年８月）～第20号（大正12年８月）
❷ 第21号（大正12年９月）～第40号（大正15年２月）
❸ 第41号（大正15年３月）～第57号（昭和８年10月）

揃定価48,000円（税別）　ISBN4-87733-206-5（セット）

全国市町村便覧　全５巻

広瀬　順皓 編・解説

❶全国市町村便覧　大正二年版
❷全国市町村便覧　大正七年版
❸全国市町村便覧　大正十四年版
❹全国市町村便覧　昭和十年版
❺全国市町村便覧　昭和十六年版

揃定価90,000円（税別）　ISBN4-87733-193-X（セット）

〒103-0001　東京都中央区日本橋小伝馬町14－5　メローナ日本橋
☎03-3808-1821　FAX03-3808-1822　http://www.kress-jp.com/
KRESS 株式会社クレス出版

●書店名